

# 第3回 平塚市総合計画審議会

## 議事録

**日時** 平成27年12月22日(火) 9時30分～11時10分

**場所** 平塚市役所本館7階 710会議室

**出席者** 19名

小中山委員(会長)、照屋委員(副会長)、赤井委員、秋山委員、石崎委員、内海委員、具嶋委員、栗原委員、後藤委員、佐藤委員、城田委員、鈴木委員、須藤委員、田城委員、西澤委員、二宮委員、水嶋委員、宮崎委員、山原委員

**事務局** 9名

**傍聴者** 3名

### 「諮問」

■落合市長から審議会に対して【仮称】次期平塚市総合計画(2次素案)の諮問を行った。

### 「議事」

#### ■2次素案について

【会長】今回2次素案がまとまったということで、先程市長から諮問を受けた。今までこの審議会では1次素案たたき台に対して、委員それぞれの立場からご意見をいただいているが、今後は2次素案について各委員からのご意見をまとめて答申をしたい。

本日の進め方だが、事務局から2次素案の説明をしていただき、その後、各委員一人一人から意見をいただければと思う。次回はその意見をまとめ、当審議会から市長への答申を行いたいと考えている。

【事務局】(2次素案について資料に基づき説明した)

【会長】事務局から資料の説明があった。先程も申し上げたとおり、答申案を作成するために、委員一人一人からご意見を伺いたいと思う。

【委員】神奈川県では県のグランドデザインが出来上がった。市では今回2次素案をまとめたところだが、5ページに総合計画が果たす役割ということで、「国、県、近隣市町村などに本市の姿勢を示し、協力・連携・調整を求めていく際の基本となる」と謳っている。

県としても、様々な計画を考えており、例えば、特区が3つある。横浜・川崎方面では、ライフイノベーション国際戦略総合特区があるが、これは医療系の機器製造、薬品の製造などである。私達が住む平塚は、さがみロボット産業特区と位置付けられており、介護支援ロボット、産業ロボット、防災用ロボットなどの臨床実験の場、また、製造の場として、相模縦貫道路を中心とした10市2町で特区申請をして認可を受けている。それにより様々な規制緩和があり、税制優遇をしているところもある。そういう意味では、今回の総合計画の中に特区が反映されているのかな、という感じがする。産業分野にさがみロボット産業特区という言葉を一言入れてもらえれば、県としても計画の実現に向けて、色々な面での援助が出来るのかなと思う。

もう一点は、ツインシティという言葉。時間としては先になるかも知れないが、この事業は新幹線新駅の開通を目指しているということもある。交通の結束ということであると、神奈川県全体で見ると、リニアモーターカーの橋本を北の核とし、相模新駅を南の核としている。南の核であるツインシティ、相模新駅を交通の結束点として、もう少し相模新駅を目論んでいるという言葉が欲しいと思う。

もう1つは、黒岩知事も使っている「未病」という言葉。64ページ、69ページでは健康長寿ということを謳っているが、特に、県では小田原・足柄など県西部を未病促進ということで進めており、もう一步踏み込んでいけないかと思う。例えば、コグニサイズ（認知症予防を目的とした取組み）を県としては進展させていこうと言っているが、この2次素案では触れられていないのは残念かなと思う。

ともかく、県との連携という点で、今申し上げたような言葉を付け加えていただければと思う。

**【委員】** 全般的に、少子化という言葉が多いが、高齢化という言葉も多い。自治会の立場で言わせていただくと、自治会を動かしているのは高齢になった人達が大半であるということをお忘れはいけない。働き盛りの世代は昼間殆ど地域におらず、これを補い、動いているのは、高齢者の方々。高齢化だから財政的にも大変だということばかりに目を向けて欲しくはない。

また、女性の活躍という面では、自治会レベルで言えば、自治会役員の6割以上は女性だと思う。自治会長に女性がいない、副会長に女性がいないという捉え方をするのは現代的でないと感じる。公民館活動にしても女性の皆さんが活躍しており、活躍の場がないとは私は思っていない。

もう一点、自治会加入率が増えないということが言われるが、そもそも加入率というものは、市に住民登録している人を分母とし、自治会費を払っている自治会員が分子になっている。これは大きく変動するものではない。同じ家に二世三世が住むという時代に、孫にも自治会費を払ってもらい、息子にも自治会費を払ってもらおうということは自治会としてはしていない。そこはご理解をいただきたい。

**【委員】** 部分的な話になって恐縮だが、合計特殊出生率が新たに表記されることになった。こういう風に出生率が上がっていくと人口が増えるかと言うと必ずしもそうではないと思う。出生率が上がっても、出産適応年齢の女性が今後どう推移するかによって、人口は増えないということにもなる。その辺りを配慮した上での目標値なのか伺いたい。

また、ワークライフバランスに取り組む企業への支援ということが出てきた。女性が働き易い職場という意味では、評価されることだが、むしろ一般の企業では当たり前のことになりつつある。男性が長時間労働にならないとか、育児休暇を取り易い環境を整えるとか、そういった数値目標を設け、具体的に進めていくことが必要ではないか。

私見だが、平塚市も構造的には少子高齢化に伴う人口減少や空洞化という課題を抱えている。しかし、私が思うに平塚は他市に比べ、地域コミュニティや市民サービスの充実は相当に高いように思う。今後、市全体のボリュームが下がっていく上で、現状と同じサービスを提供し続けていくのは無理があり、場合によっては公民館などを統廃合し、中身を充実させていくような形を考える必要がある。全てを総花的にやるのは無理が生じる。

**【委員】** パブリックコメントの中にもあったが、「選ばれるまち、住み続けるまち」というフレー

ズが他のページに追加されたのは良かったと思う。また、22 ページにはまちづくりの基本姿勢として「市民参加と協働によるまちづくり」と書かれているが、市民参加という面で、私は浅間祭という青少年会館のお祭りに10数年携わっている。5年くらい前から市の予算がなくなり、今は参加費を取って参加する団体でお祭りを作っている。自分達でお金を出して参加するというので、以前より参加者の関心が高まり、お金もないなかでやるので、時間がかかる面も出ているが、その分参加する人の繋がりが増えている。そういった市民参加という部分では、お金は自分達の持ち出しになってしまう面もあるが、自分達でつくることから、関心が高まるということは良いことだと思う。

102 ページの観光の振興に関しては、SNSなどを活用することが書かれている。最近ではフェイスブックやユーチューブで平塚の良いところが沢山出されている。先日、平塚のお店を紹介した「平塚食本」も出て、結構売れていると聞いている。また、総合公園がドラマ撮影で使われた。そういった情報が目につくようになったので、活用出来ればと感じている。

パブリックコメントのNo. 32子育て支援の意見について、参考意見とするという市の回答だが、学童や保育園も含めて子どもたちのことをしっかり考えていただきたいと思う。

**【委員】** 1次素案からの変更点については、取り入れられた意見も多く、よろしいのではないかと思います。土木事務所の立場で都市基盤・まちづくりの関係で意見を言わせていただくと、神奈川県は人口が減るといっても、地方の自治体と比べるとまだ問題はないと思える。いかに元気なまちを作っていくかということが指標として設けるのが大事ではないかと思う。我々もツインシティの実現を目指していく流れの中で、交通網整備という面では県の道づくり計画でも平塚愛甲石田軸の早期整備については、支援していくことを記載した。

活気のあるまちを繋いでいくことがポイントだと思っている。コンパクトシティという考え方もあり、1つ1つのまちを交通軸で繋いでいくことが大事なことはないかと思う。

**【委員】** 担当部門がページ毎に表記されたのは評価したいと思う。また、パブリックコメントにもあった囲碁文化の向上という点では、囲碁を単なる娯楽とするという人もいるが、市としては少しランクを上げて捉えていただいたのは好感が持てる。

64 ページに食育という言葉が出てきたのは概ね評価したい。ただ、県が出したから市も出すということは残念である。平塚は明治時代に村井弦斎が住み始めて、「村井弦斎イコール食育の元祖だ」という部分もある。また、食育推進ママの会という会もある。明確に食育という言葉を使っていなくても、平塚にはもともと食育に関して土壌がある。また、農業・漁業により食材が豊富で、それが我々の食文化に影響されている。県でなく、我々が本家本元だというくらいに胸を張っていただきたい。

シティプロモーションについて、平塚食本が出たが、この実態調査を早急に行っていただきたい。実際に本に載ったお店にも行って話を聞いたが、お客さんがそこまで増えたわけではないらしい。また、市外では手に入らないという声が多かった。平塚は発信力の伸び代はまだまだあると思うので、お願いしたいと思う。

**【委員】** 漁協では、最近、圏央道開通の効果で県外のお客さんもかなり増えたと思う。新港の駐車場も大きな観光バスが入ったりすることが以前に比べ多くなっている。そんな中望むのが、駐車場のトイレを綺麗にしてもらいたい。合わせて、千石河岸も空き地が増えていて、その土地を有効利用して出来れば下水道も作ってもらえると有難い。来る人は増えていて、お店

やメニューの数も増えている状況で、地域の活性化はされているが、それらを有効利用するためにトイレや下水道の整備をしていただければ助かる部分があると思う。

【委員】 今回の総合計画は自治基本条例に基づく総合計画に、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく総合戦略を組み込んでいくということで、過去の策定作業と一味違うものだったと思う。構成・内容・指標など、色々ご苦労があったと思うが、総合計画と総合戦略の2つの整合については上手く整理していただいたのは良かったのではないかなと思う。県でも人口ビジョン・総合戦略を策定しているが、12月に素案がまとまったところで、今後市と連携していくことになると思うので宜しくお願いしたい。県施策との関連の記述については、先程、他の委員からも指摘があった。全体のバランスはあると思うが、私としてもその点をご検討いただければと思う。

【委員】 パブリックコメントで寄せられた意見が33件ということだが、最上位の計画に対するパブコメという点では件数が少ないという印象を受けた。総合計画の位置付けとして、国や県、近隣自治体に本市の姿勢を示すということがあるが、前提として、まず市民に対してこういう計画があるんだよ、これが皆の住むまちの基本になるんだよ、ということをしつかりプロモーションしていく必要があると思う。

寄せられた意見の中で、約半分にあたる15件が「豊かな心と文化をはぐくむまちづくり」に集中しており、青年会議所の立場としては賛同したいところである。まちづくりはハードの施策を整えるのは当然のことだが、心とか誇りとか、ソフトの面が伴わないと上手く回っていかないと思う。市民の誇りを育むということは、住みたいまち、選ばれるまちということではとても大事だと思う。また、囲碁に関する意見が取り入れられたのは大変嬉しく思う。私も囲碁まつりにも参加させていただいたが、小さなお子様の教育や認知症予防、世代間の交流などに積極的に活用していただきたい。

それと、平塚ならではの観点で、七夕も一時の商店街のお祭りという位置付けではなく、平塚の1つの文化ということで、市民の皆さんの誇りとなるようなものに育てていただければと思う。戦略的な「選択と集中」をお願いしたい。

【委員】 総合計画そのものに先見性・訴求性があることが大事だと思っている。前回の審議会で小児・周産期関係の目標値を設定したらどうかと発言し、今回指標が設けられたのは良いことだと思う。ただ、平塚市だけでなく、神奈川県内の二次医療機関の1つである湘南西部医療圏は非常に医療が充実していて、神奈川県内でもトップクラスである。その中で周産期・小児は非常に厳しい部分でもあるが、その点を集中してやって、子育て世代の人が平塚に集まり、住み続けられるようにしていかなければいけない。そのためには横の連携も重要で、公民の医療機関の話し合いも十分必要かなと思う。

また、教育環境のところで、いじめ・不登校をなくすだけでなく、10年先の目標を設定するのであれば、来年から義務教育校の開校が可能になる。数年前から小中一貫教育が全国的に試みられており、中1ギャップなどの課題に効果的であると言われている。平塚ではまだこれからかも知れないが、10年先の目標を見るのであれば、小中一貫教育という言葉が入ってきても良いのではないかなと思う。また、保育園と幼稚園を一体にした認定こども園で待機児童ゼロを目指す。これらを横串で刺して、さらに、それを決定する機関を設置しないと前に進んでいかないと思う。今回の総合計画の策定をきっかけにして、そういった点の見

直しをしていただければと思う。

【委員】14 ページに新たに「選ばれるまち、住み続けるまち」という記述を入れていただき、有難く思う。28 ページには「子や孫へたしかな平塚をつなぐ」と大きく書かれているが、私としては、これまでもこれからも市長含め、平塚市が選ばれるまちになるために挑戦していくんだ、という強い気持ちが必要だと感じていたので、「子や孫へたしかな平塚をつなぐ」に違和感がある。ここにあるべき言葉は、今の平塚にとっては、これから8年先、10年先、選ばれるまちになっていくんだという強い気持ちが必要だと思う。基本中の基本の言葉である「選ばれるまち」という言葉をここに入れていただきたい。6月にシティプロモーションの担当も設置され、皆で力を合わせて、このまちの持っている魅力を最大限に発信し、既に平塚に住んでもらっている人も含めて、他の市町の人からも選んでもらうんだという強い気持ちを基本計画の基本的な言葉として載せ、強いメッセージを発信していただきたい。

【委員】教育委員会で選ばれるまちを考えると、平塚には美術館も博物館もあり、近隣市に比べると魅力があると思う。美術館も博物館も一所懸命イベントを打って、集客にも努力をしている。博物館の特別展の相模川水系の図録も非常に素晴らしく、図録を見ながらツーリングに行きたいと思わせるようなものだった。

他の委員から話が出た小中一貫教育という点では、平塚市も先日、八潮市に視察に行っている。そういった活動もしているが、教育委員会では「ふれあい授業」ということで、教育委員が小中学校に出向いて授業をするということをしている。10月にさくら幼稚園に出向いたが、さくら幼稚園は大野小学校と同じ敷地で運営している。そこで幼稚園と小学校の連携は先生方の交流など、見えない部分では進んでいると聞いている。また、幼保一体は港地区でスタートしている。

公立幼稚園では定員割れという問題がある。平塚市では民営の幼稚園がかなり行き渡っている。それを考えると、定員割れも仕方ないかなと思う。一方、逆の見方をすれば、園児一人あたりにかける時間も長くなるので、園児が少ないのが悪いということではないと思う。

47 ページの成果指標に違和感がある。「授業（国語、算数・数学）の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合」とあるが、結果として出てくるのはいいが、いきなりこういう漠然としたアンケートが出されても答えづらいのではないか。こういう結果が導き出されるような質問項目にしてもらいたい。「自分にはよいところがあると回答した児童生徒の割合」も具体性に欠ける指標になっていると思う。

【委員】西湘地域の組合員の雇用の安定確保という点でこの審議会に出席している。昨今、為替の変動が120円前後で推移しており、一部国内の産業も活性化している。ただ、98 ページの工業の振興にもあるが、本社の地方への移転が進んでいて、湘南西部、平塚の発展ということが気になっている。そういった中、99 ページの成果指標を見ると、「工場の新規立地や増築に対する助成件数」が現状値10件に対して、4年後の平成31年は31件と非常にアグレッシブな件数となっているので、今後も注視したいと思っている。

また、パブリックコメントで囲碁についての意見が多く寄せられていたが、平塚は囲碁の文化が盛んということを初めて認識したので、それについては、今後も意識していきたいと思っている。

【委員】農業委員として農地を見回る仕事をしているが、荒れた農地が多い。荒れているのは高齢

者の土地とイノシシ・シカ・サル被害を受けるのが怖いということで手入れされていない土地である。土地が荒れていれば税務署が税金をかける。市と農協とで補助金を出して、電気柵を作っているが、個々にやってもかなりの距離になってしまう。秦野のように山沿いにずっと張り巡らせれば、距離的にも面積的にも広く出来るのではないかとということで農業委員会でも話をしている。また、道路が出来れば動物にとっては1つの壁になる。道路も拡張して作ってもらえれば動物の侵入も防げるのではと思う。

また、丘陵地域は緑があればいいというだけでなく、少しは開発的なことを考えていただければ有難い。2次素案では多少そういった言葉も含まれているが、もう少し踏み込んでもらいたい。

**【委員】** 今回の審議会は地方版総合戦略をどう立てるかという観点と、従来の総合計画の2つが合流している。完成した計画を1つの作品と捉えた場合、作品の提出先というのは市民と内閣府になるはずである。この2つが仕分けされないまま出来上がっているように思う。パブリックコメントを見ると、地方創生、総合戦略という面は市民の方は殆ど見ていない。人口減少に対する対応策が非常に弱くなっていると思う。その観点からいうと、合計特殊出生率を1.32から1.42に引き上げるという目標が出ているが、これは人口問題の片側だけでしかない。自然増だけを取り上げている。現在の平塚市の年間出生数は1,800人なので、この目標を達成するには単純に2,000人にすればよいので、これは施策の展開によっては可能であろうと思う。一方で、社会減と社会増を比べると、社会増が年間8,200人、社会減が8,900人なので、既に社会増減で減っている。自然増を増やすのは大変だと思うが、社会増は自然増に比べるとずっと簡単だと思う。具体的に手応えが得やすいはずである。そう考えると、数値目標に社会増も入れるべきではないかと思う。人口の将来展望のグラフについても、自然増を増やすことによってこれだけ上乗せされる、社会増が増えることによってこれだけ上乗せされるというグラフがあるべきではないか。そういう視点を持って初めて、地方版総合戦略になり得るのであって、そうでないと今までの総合計画と何ら変わらないのではないかと思う。

もう1つは、KPIについてである。前回は申し上げたが、現状値と平成31年度、平成35年度の目標値があるが、この現状値はもともとKPI的な性格を持った数値ではなかったはずである。また、KPIはこういう数字を出すものでないと思う。市民にとっての満足に繋がるという観点に立ち返って、市民の満足度に近いような表現を入れるのが本来のKPIではないかと思う。今から全てを変えることは難しいと思うが、背景にはそういう考えがあるという前提で策定をしていく必要があるのではないか。

それと、先程から話が出ている情報発信。選ばれるまちというのは、市民の人に対してではなく、市外の人に対してのもの。「平塚とはこういうまちである」という発信について、戦略があるべきだと思う。情報発信について、戦略性が全く触れられていないのは残念に思う。

**【委員】** 序論で、財政見通しが示されることになるが、実施計画を推進していくには、前提として財政計画がしっかりしていないといけない。どんなに夢を語っても、それを実現する資源がなければ、絵に描いた餅になってしまう。そういう意味では財政見通しから一步踏み込んだ財政計画が必要だと思う。まして、市内の建物の老朽化と更新が控えているとも書いてあり、

長期の計画を作るには、長期の財政計画が必要ではないか。

また、同じく序論の中になるが、国、県の施策と市の施策の連携の面で、国が定める手続法的なものであれば、着々と進めているが、理念法になると、国の定めた理念法が県に下り、県の定めた理念法が市に下り、と段々ぼやけてくるように思える。しっかりと具体化するような姿勢が序論の中に必要だと思う。

教育の面でいうと学力も大事だが、家庭も多様化しているという中で、国が定めた食育基本法という理念法があり、それに基づいて県も方針を打ち出している。ただ、それが市に下りてくると段々ぼやけてくるように思う。

もう1つ、地域のコミュニティについて、他の委員も話されていたが、地域コミュニティは自治会が中心になる。任意で自治会費を払っての参加にはなるが、加入のメリットを打ち出しにくいという面がある。各自治会が加入を進めても、自治会のメリット性を打ち出せないと思う。地域コミュニティを守っていくには、そのメリットをこの計画の中で打ち出せればよいと思う。

**【委員】** 今回の総合計画は自治基本条例を策定根拠にまとめ上げたものになっている。22ページにある、まちづくりの基本姿勢の中の「市民参加と協働によるまちづくり」で、パブリックコメントの意見も受け、企業・NPOの文言も含まれたが、やはり平塚というまちには生活者がいるのと同時に、生活の糧となる仕事・企業が市の一翼を担っている。そういう意味では、市民参加という捉え方でも理解出来るが、「市民や企業と協働による」とか、もっと積極的に元気な平塚を作っていくような表現に出来ればと思う。

「効率的・効果的な行政運営によるまちづくり」について、平塚市では市民病院・新庁舎・ごみ焼却場と100億を超える大きな3つの事業を進め、胸突き八丁というところまできているところで、今回の総合計画の策定を迎えているが、後年度負担として多額の元金償還を今後抱えている。それはもう分かっていることなので、施設の総量削減や民間活用などをこの計画の中に積極的に盛り込むことによって、計画の厚みが出てくることと思う。それぞれの施策展開においてはそういった体質改善が求められていることを答申の中でお示しいただきたい。

**【副会長】** 前回は申し上げたが、重点施策Ⅳには2つ個別施策があるが、3つ目の個別施策として、基本施策の2-②にある健康づくり、3-④にある安心・快適にあたるところを抜き出して「安心・快適な生活環境の形成」としたらどうか。重点施策の個別施策を3つずつ体系付けなければいけないということはないが、今申し上げたところは非常に重要な分野になると思う。

**【会長】** 他の委員からもあったが、戦略計画という面が弱いのではないかという思いがある。戦略計画をもっと強く打ち出すのであれば、「選ばれるまち、住み続けるまち」をもう少し強調すべきかと思う。また、この戦略計画を執行することによって、人口減少社会にどういった影響が出るのか、そういう側面を出してもよいのかと思う。

それと広域行政、地域間連携、県との連携について、計画の中に反映させていく必要があるのではないかということ。また、広報戦略をどのようにやっていくのかということが殆ど言及されていないので、平塚市の魅力をどう発掘して県外・市内外に発信していくのか、それが反映されていけばよいのではないかと思う。

【事務局】 沢山のご意見をいただきありがとうございます。1点補足説明をさせていただく。合計特殊出生率について目標値を示させていただいたが、最終的な目標値は1.8と考えている。国、県は2.07としているが、本市では1.8としたいと考えている。平成31年度1.42、35年度1.51という目標値はそこに至る間においての途中経過として捉えていただければと思う。

【会長】 それでは本日皆様からいただいたご意見は事務局で整理していただき、次回の審議会で答申案という形にしたいと思う。以上で議事を終了する。

【委員】 (異議なし)

以 上